

書家物鑑卷之十一



富我梅溪卷之第一



一 世宗^{せいしゅう}のまゝのま

一 大房^{たいぼう}のま

一 伊豆^{いず}のま

一 冠^{かん}のま

一 月^{つき}のま

ふらふらと仕舞ふにゆかたをきりぬき
とまゆぐるにまはるにふたつとくし
うららかなるにまはるにふたつとくし
非あしきうしてまはるにふたつとくし
のちおとくまはるにふたつとくし
わらわちまはるにふたつとくし
うららかなるにまはるにふたつとくし
うららかなるにまはるにふたつとくし

あしきうしてまはるにふたつとくし
のちおとくまはるにふたつとくし
わらわちまはるにふたつとくし
うららかなるにまはるにふたつとくし
うららかなるにまはるにふたつとくし
あしきうしてまはるにふたつとくし
のちおとくまはるにふたつとくし
わらわちまはるにふたつとくし
うららかなるにまはるにふたつとくし
うららかなるにまはるにふたつとくし

なまじいぢやあいのうくまは手家一軒すゆその太刀
いぬのそんよはまき人 秘中一かたはひと義
太節ねて九節判なまき 一もをらうとくは林社
わそりりあう中いさ名してわらた力のまは
うすりをとて振ら奥羽丸といふ力之秘はる振
の付書我々の流りいりうとよまね分し思のまう一歌
討九いぬ兄才して切るまこ三人いあらんを外こく
いり今カいそ安カカうううまえる辰とそまうと辰

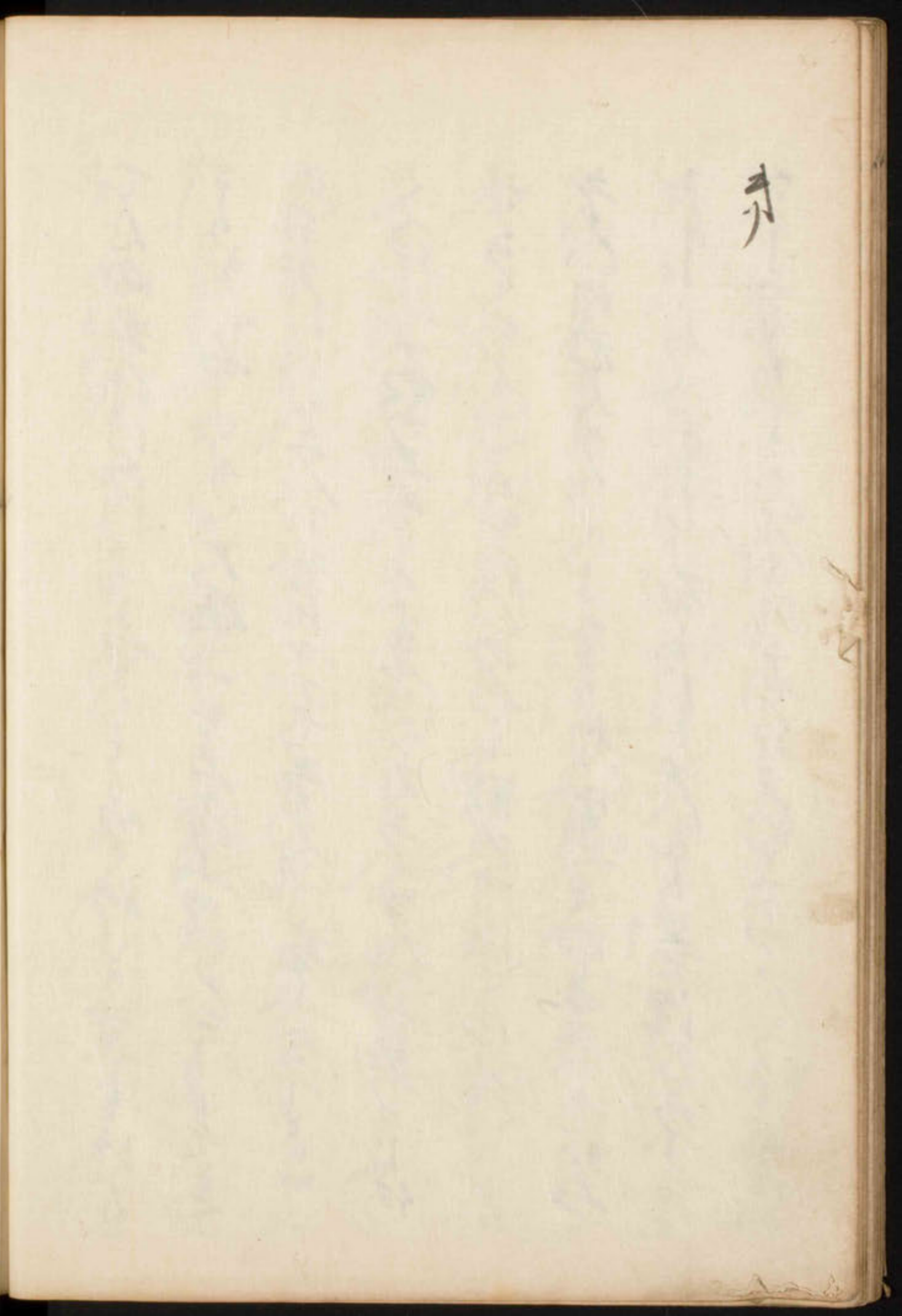
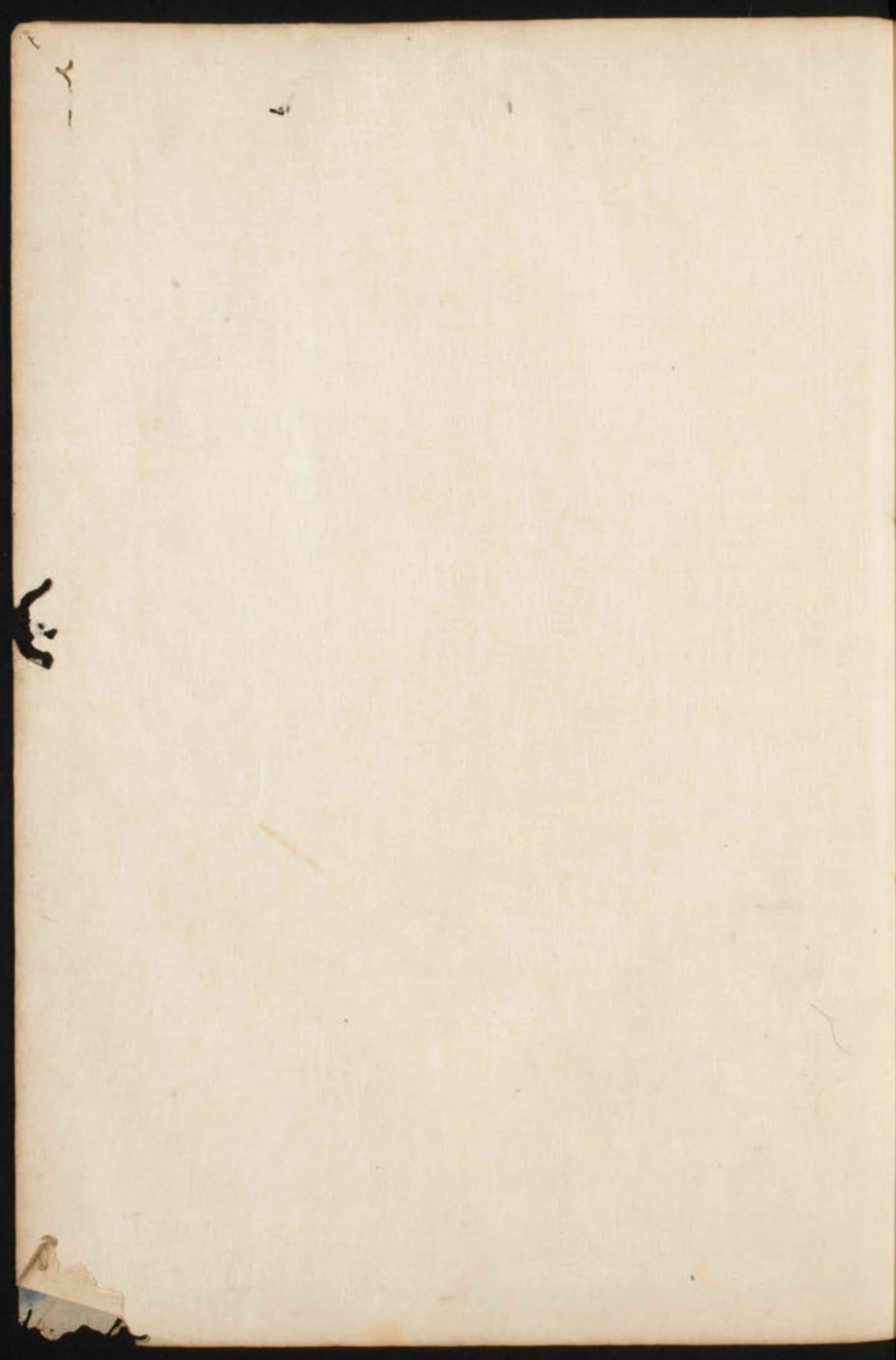
ぢらとまあのだとんじまて太節うくとまて人の奇
とまうととま人まてら辰カおあ人辰あ辰あうら
まこくまてうんうまをうくにまう一いりませいり
う辰辰カ一のうくう辰とんじまに中人ま行とああ
いり一まえるあう一いりままとり辰一赤高しそとり
いりまや三思一言思まあうういりあやうとまけ辰
婿子辰辰カと九とちりうういりあまあ辰辰辰
うそまうける侍とて父まと辰辰辰辰辰辰辰辰辰

今方のしつこくして若くは必し執念の付人として
世家人多きものほりて事人の言し付るべきは
そふ今此種をいふ事にはわづらひたすや男をん
まゝと今方とていきて昔痛とて言ふ人より鑿力
にしてこそいふべき事なりし事なりしはる報報言ふるは
らるる事なりがとていふ事なりとていふ事なり
此れも勇士のいふ事なり陣とていふ事なり軍
の事なりからる事なりと款の事なりとていふ事なり

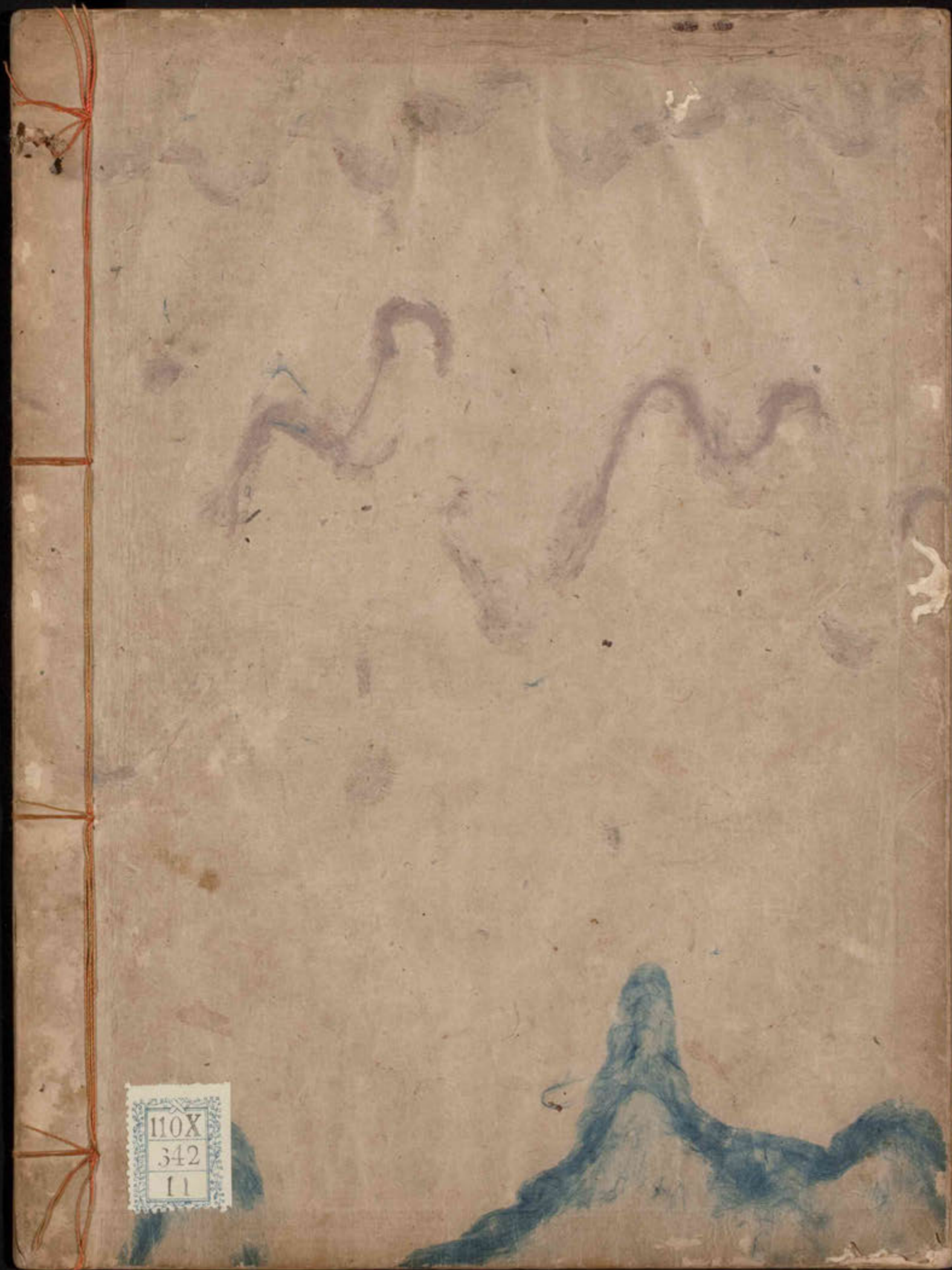
かゝる事なりは情とていふ事なりは記
信之軍車にのりて事なりとていふ事なり
とていふ事なり自れとていふ事なり
生事とていふ事なり戦場の事なりとていふ事なり
の勇士款の事なりとていふ事なり
いふ事なりは事なりとていふ事なり
いふ事なりは事なりとていふ事なり
いふ事なりは事なりとていふ事なり
いふ事なりは事なりとていふ事なり

ふの重連はあちとてはよくすし義成のちうき一重連
返りて義成のちうきとてさるる地と見えお
の伊豆守よりてはかきおのふとてはかきおの
くらひのちうきとてはかきおのふとてはかきおの
あえ人もてあてく誰そは終身なるま物とて
伊豆守部はあちとてはかきおのふとてはかきおの
一う重連あちとてはかきおのふとてはかきおの
たうとてはかきおのふとてはかきおのふとてはかきおの
たうとてはかきおのふとてはかきおのふとてはかきおの

いふとてはかきおのふとてはかきおのふとてはかきおの
しきいしはかきおのふとてはかきおのふとてはかきおの
目果懸はかきおのふとてはかきおのふとてはかきおの
うの重連はかきおのふとてはかきおのふとてはかきおの
まの重連はかきおのふとてはかきおのふとてはかきおの
あちとてはかきおのふとてはかきおのふとてはかきおの
あちとてはかきおのふとてはかきおのふとてはかきおの
あちとてはかきおのふとてはかきおのふとてはかきおの
あちとてはかきおのふとてはかきおのふとてはかきおの
あちとてはかきおのふとてはかきおのふとてはかきおの



43



110X
342
11